



# 白川静漢字教育賞【第11回】



日本と中国の漢字のちがいを  
対照表にした参考書を自費出版し  
それを用いた漢字教育の実践  
～日本語と中国語を学習している子どものために～



兵庫県 伊奈垣 圭映(梁佳恵)氏  
(大阪府東大阪市立北宮小学校講師)

## 【始まりは私の体験から】

私は日本で生まれ育った華僑五世です。中学生まで、大阪中華学校と神戸中華同文学校で学びました。中国語と日本語の二言語環境の中で教育を受けて育ちました。1964年に中国で『簡化字総表』が発表され、学校教育でも簡体字が使われるようになりました。私は小学校時代に繁体字と簡体字の両方を、さらに日本語の授業では常用漢字を学び、漢字の字形のちがいに混乱していました。

教師になり、神戸中華同文学校をはじめ、日本の公立学校でも私と同じように漢字学習に戸惑いを感じている子どもたちに出会いました。彼らと教師の参考になればと日本と中国の漢字対照表をプリントにしていました。それを編集し直し、2015年『ちがいがわかる対照表 日本の漢字 中国の漢字』を自費出版しました。

	265	266	267	268	269	270
常用	漢	館	岸	起	期	客
音訓	カン ヤカ	カン ヤカ	カシ ガン	オキ キ	キ	キヤク
簡体	汉	馆	岸	起	期	客
拼音	hàn	guǎn	àn	qǐ	qī	kè
繁体	漢	館	岸	起	期	客
注音	ㄏㄢˋ	ㄍㄨㄢˇ	ㄢˋ	ㄑǐˇ	ㄑㄧ	ㄎㄜˋ

本書32ページ

## 【漢字教育から語学、多文化共生教育への発展】

漢字圏から渡日してきた子どもでも日本の漢字を覚えるのは、容易ではないです。ましてや、非漢字圏からの子が漢字を学習するのはかなりの努力がいります。私は、通常学級でも日本語指導でもその成り立ちや意味の変化などを話しながら、表意文字である漢字の良さを子どもたちに伝えるようにしています。

4年生で「漢字が苦手。」と言っていた子に、「漢字を覚えるんじゃなくて、楽しむんだよ。」と一字ずつに物語があると話す目と目を輝かせて聞いていました。その子が、卒業式の日「漢検準2級合格しました。」と報告してくれました。

中国から渡日2年になる6年生の子には、彼の中国語の読み書きができる強みを生かし、日本語学習を支援しました。例えば、よく迷う「ほうもん」は「訪問」か「訪門」かは、中国語で読み意味を考えれば解ります。母語である既習の中国語を保持し、日本語を学習できることに気づいた彼は、「両方とも勉強したい。」と意欲的でした。

小学校高学年の多文化共生授業で、この本から漢字クイズを出します。子どもたちに簡体字や繁体字を見せ、それに対応する常用漢字を考えさせます。例えば「書・業」は「書・業」、「醫・龜」は「医・亀」など、みんな興味津々です。漢字は使われている地域や時代によって変化していること、ひらがなとカタカナも漢字からできたこと、そして、文字を知ることによって生活がよりよくなる「識字」の話もします。

漢字学習から文化を豊かにし、視野を広げることができるとこれからも伝えていきます。また、この本が日本語と中国語の学習者、指導者、漢字圏の様々な場面で役立つ参考書になることを願っています。



参考：「私だからできること」他  
(アクラス日本語教育研究所への投稿文)

『ちがいがわかる対照表 日本の漢字 中国の漢字 第2版』  
伊奈垣圭映・編 陣条和榮・絵 宝友書房 2019.10  
ISBN978-4-600-00166-7

## ■講評

(伊与登志雄氏)

同じ漢字文化圏にありながら日本の常用漢字と中国の簡体字、台湾の繁体字には微妙な違いがある。中国語圏から来日した子どもたちの戸惑いに対し、母語を忘れることなく学習意欲を高める教材を開発し、本として出版した。教材は字形を比べることに特化し、シンプルで理解しやすく工夫されている。ありそうでなかった本で、中国、台湾のみでなく日本の中国語学習者、仕事で簡体字などに接する大人にも役立ちそうだ。交通機関にも三様の漢字が表記される中、多文化共生教育を推進する先駆的な実践として高く評価したい。

# 白川静漢字教育賞【第11回】



## 白川文字学を活用したデザイン展開

福井県立科学技術高等学校 産業デザイン科

福井県内の小中学生にとって、白川文字学は慣れ親しんできた存在である。その漢字をモチーフとして、デザインに応用できないか実践を試みた。

生徒たちは今までに白川文字学を学習してきたこともあり、特に抵抗なく課題に取り組むことができた。今まで触れてきた漢字を形（フォルム）として捉え、そのフォルムからイメージを膨らませ、デザインに展開していく試みである。漢字の形の成り立ちや漢字の持つ意味から発想しデザイン制作するもの、フォルムから受けるイメージをデザインに生かすものなど、生徒各自の視点から様々なデザイン展開につながった。

グラフィック、テキスタイル、パッケージなど、あらゆる分野の商材にデザイン展開していくことを目的としている。海外での漢字への関心がより高まっていることも聞かれる。デザインを通して、さらに白川文字学の魅力が世界に広まることを願っている。  
(担当：教諭 佐藤 秀紀)

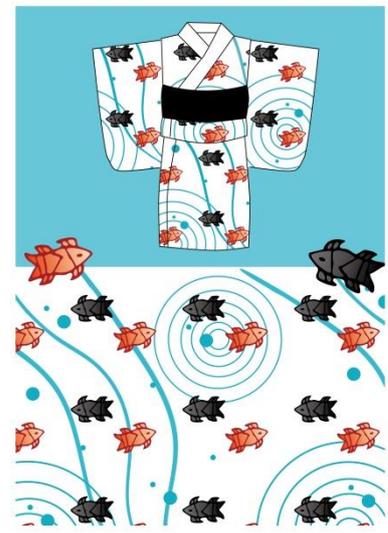
### ● 生徒作品例（抜粋）



3年 荒井 咲衣 「灰」



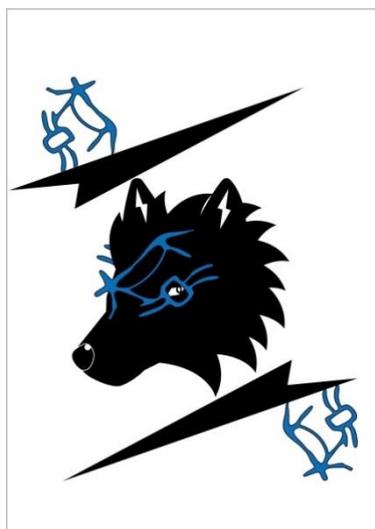
3年 岩下 愛生 「星」



3年 岩堀 天音 「魚」



3年 木下 舞 「不」



3年 酒井 晴 「狼」



3年 高嶋 彩央 「象」

### ■ 講評

(伊与登志雄 氏)

古代文字をモチーフとした商品の提案書作りに選択授業の生徒全員で取り組んだ。高校生は白川文字学に基づきアイデアを練り、Tシャツや浴衣、トートバッグ、ポーチ、包装紙などのデザインを考案した。独創的で感性豊かな作品ぞろい、すぐにでも商品化できそうな質の高い作品もある。日常生活で目に触れやすい商品への使用は、漢字への親しみを増し、漢字文化の普及も期待できる。

# 白川静漢字教育賞【第11回】



## 漢字でまちを活性化する実践

福島県 喜多方を漢字のまちにする会  
会長 萩原 孝 氏

### 1 実践の概要

喜多方市内や近隣市町村の方々や教育関係者等への古代文字の漢字講座や小学校での卒業制作（篆刻）などを通して、漢字への新たな興味関心とすばらしさに気付いてもらい漢字で街を活性化する実践をした。

### 2 実践の内容と成果

#### (1) 古代文字の漢字講座

古代文字の成り立ちを説明するにあたり、古代文字の解釈には、白川静氏の解説・研究に基づいた著書等を参考にした。

受講にあたり、甲骨文、金文、篆文で書いた文字が、現在の楷書では何の漢字になるかをまず考えさせた。全てが初めてのようで、古代文字からの語源を楽しそうに聞いていた。また、観光ボランティアの方々においては、市内の商店に掲げてある古代文字の看板を教材にしたので、観光客への案内にとっても役立っている。

継続的に講座の依頼や周辺市町村からの依頼も増えていることは、古代文字を通した漢字講座が浸透してきているものと思われる。

<テーマ（地域や参加者を考慮し、主催者の希望に応じて、以下のとおり設定）>

- ① 「自然の形・自然に宿る神」に関する漢字
- ② 「農耕と生活」に関する漢字
- ③ 「人の形と手足」に関する漢字
- ④ 商店街の古代文字看板

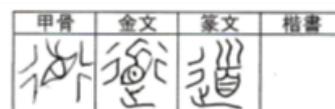
#### (2) 手作り紙芝居による古代文字の説明

漢字に関心を持たせる一手段として、立体的な手作り紙芝居を用いた。漢字の成り立ちから始めて、それから漢字の語源を説明する内容にした。喜多方は、蔵の街なので「蔵」と「倉」の内容を作成し説明した。

#### (3) 篆刻による游印作りと古代文字

公民館講座や小学校の卒業制作、教員研修会で游印作り（篆刻）を実施した。古代文字で書かれた名前カードを参考にして白文で作成した。古代文字で書かれた自分の名前を見て、どんな意味があるか知りたいということから、游印を添削しながら古代文字から分かる名前の語源を説明した。

これらの活動やそれに必要な備品等には、市や観光物産協会から補助を受けることができた。これは、今までの実践内容が街の活性化の一環として、有意義な活動と認識されてきたためと思われる。



商店街の古代文字看板



手作り紙芝居



教員研修会

#### ■ 講 評

(伊与登志雄 氏)

漢字を生かして地域（福島県喜多方市）の活性化を目指している取り組み。地元の篆書家が中心に始めたグループ活動を、指導者亡き後も漢字講座や篆刻指導など活動の幅を広げながら継続。一般市民や子どもたちに漢字の魅力を伝えている。観光ボランティアへの講習会も開くなど地道ながら息の長い実践は、地域を担う人材を育て「漢字のまちづくり」に寄与している。

# 白川静漢字教育賞【第11回】



## 漢字ナーダム

モンゴル日本語教師会初中等部  
中西 令子 氏

非漢字圏であるモンゴルでは、漢字学習に初めは興味を持ちますが、漢字の多さやいくつもある読み次第に嫌気がさし、漢字学習に支障がでることがあります。

私たち初中等日本語教師は、どうしたらモンゴルの子どもたちが漢字に興味を持ってくれるか、また指導する側としても、何かいいアイデアはないかと話し合いました。そして、学校対抗の漢字競技会をやったらどうかという意見が出ました。

そうして1996年に第1回漢字ナーダムを開催しました。モンゴル全国で日本語を学習する初中等機関20数校のうち、第一回目の参加校は5校でした。しかし毎年続けることにより、参加校は増えていき、2023年は17校になりました。

因みに「ナーダム」とは、モンゴル語で「お祭り」「競技会」などの意味です。この競技会は筆記試験ではなく、漢字の成り立ち、つくり、意味などを取り入れたゲームを中心としています。

2021、22年はコロナ禍で開催できませんでしたが、その代わりに、学習者たちから漢字の成り立ちを創作した作品を集め、小冊子にしました。



漢字のゲームを楽しむ子供たち



漢字ナーダム参加者で記念撮影



学習者たちが漢字の成り立ちを創作した作品集

モンゴルは、日本の4倍の国土を持つ国で、日本語教育は、首都ウランバートルから430キロも離れた地方都市、1000キロ近く離れたところでも最近も行われるようになっていて、私たちもそういうところの支援をしたいと考えていますが、なかなか実行に移せないのが現実問題です。今回は、国際交流基金からの助成金をもらえたことで、地方の学校からの参加者の交通費を出せることになりました。こうしたイベントは、年に1回で、子どもたちも楽しみにしているそうです。

### ■講評

(伊与登志雄 氏)

非漢字圏のモンゴルで漢字普及に取り組んでいるユニークな実践。ナーダムという国民的なスポーツ大会を応用し、子どもたちに漢字学習の楽しさを伝えている。教育環境の面でさまざまな困難がある中、先生たちの創意工夫で改善を図り、イベントを長く継続させている点が素晴らしい。取り組みの内容が分かる動画があったのもよかった。

### 【一般の部 講評】(選考委員：伊与登志雄 氏)

11回目を迎えた今回の白川静漢字教育賞には12点の応募がありました。内訳は福井県外7点、県内4点、海外1点です。前回より2点少なくなりましたが、漢字文化圏ではないモンゴルからの応募があり、中国や台湾の漢字と日本の漢字の違いをテーマにした教育活動もありました。「多文化共生」が求められる時代にマッチした実践が目につきました。また、銭湯でお風呂につかりながらの学習、YouTube、部首カードの活用など工夫を凝らした多彩な取り組みもあり、漢字教育の裾野の広がりを感じました。

漢字教育というかたぐるしいですが、ゲームを取り入れたり、お気に入りの漢字を作品にして商品展開を目指したりするなど、楽しく漢字を学べる工夫、実用的で可能性を秘めた企画もありました。

こうした優れた実践を通して漢字の魅力にふれ、親しみを覚える人が一人でも増えるよう願っています。かつて白川静博士は「東アジア世界では漢字は共通言語的役割をもち、漢字文化圏の復権は東洋の復権でもある」と述べられていました。漢字教育賞がこれからも、白川博士が言われた「識字教育を介した東洋の理念の回復」に寄与するよう期待します。

# 白川静漢字教育賞【第11回】



## 漢字川柳部門

(講評：選考委員 大野 喜美恵 氏)

### 「優」ただじっと 悲しむ人の そばにいる

ただじっと かなしむひとの そばにいる

福井県 福井市文殊小学校6年 宮越 悠喜さん



<「優」成り立ち>

音を表すのは憂。憂は人が死んだ後、つきあいなどをひかえて、頭に喪章つけた人が哀しんでいる姿である。その哀しむ人の姿を優といい、またそのしぐさをまねする人を優という。その哀しむ姿や動作から「やさしい、しとやか、まさる、すぐれる」の意味に使われるようになった。

【成り立ち・古代文字】参考文献：『白川静博士の漢字の世界へ』（福井県教育委員会/編、平凡社刊）

#### ■講評

漢字の成り立ちを適切に反映しつつ、優しさの最たる姿が端的に表現され、感心しました。真の優しさとは悲しむ人に寄りそうことだと気づかされました。情景がイメージしやすい作品であり、作者自身の優しさも伝わってきます。

## 漢字作文部門

(講評：選考委員 大野 喜美恵 氏)

### 「隠されたメッセージ」

福井県 福井市清水中学校2年

松山 晴佳さん

私は、ある時から「吐」という漢字はとても深い意味があると考えようになりました。そのある時とは、流れてきた動画でゴルゴ松本さんという方が「吐」という漢字についてこう言っていた時です。

「辛いことがあったら人はマイナスなことを言い、弱音を吐く。『吐』という字は口にプラス、マイナスと書く。辛いことがあったら良いことも悪いことも吐き出していい。でも、夢を実現させる人は弱音を吐かなくなっていく。良いことを言って、少しずつマイナスを取っていく。そうしたら、『叶』という字になる。」そう言っていました。

この言葉を聞いたとき、とても感動しました。「吐」という字は反吐(へど)などのマイナス的なイメージでしたが、このようにポジティブに捉えることができ、漢字は奥が深いと思える出来事になりました。そして、漢字は本来ある意味の他にも何か素敵なメッセージが隠されていると思いました。

### 「耳と目と心で」

福井県 福井市清水中学校2年

水上 きいさん

私は最近、ボーっとして人の話を聴いていないことが多い。もちろんわざとではないのだけれど、案の定、後で困ることになる。そして、「聴く」ことの大切さを痛感している。

「音や声が自然と耳に入る」という意味の「聞く」と比べて、「聴く」は「理解しようと自ら進んで耳を傾ける」という意味だ。

小学生の頃、何の授業でどんな先生が話していたかも覚えていないけれど、その先生が黒板に「聴」と書いて、「耳と目と心で聴くんです。」と教えてくれたことがあった。まだ今よりも幼くて、人の話を素直に受け入れていた私は、この話を聴いて「なるほどなあ。素敵な漢字だな。」と感心した。

相手の話をしっかり聴けることは人付き合いや仕事では必要なことだし、役に立つ。これから、自分のためにも「耳と目と心で聴く」ことを実践していきたい。

は  
吐く

「吐く」から  
「-(マイナス)」  
を取ると...



かな

叶う

「+ (プラス)」  
だけが残って  
「叶う」になるよ。



#### ■講評

漢字の奥深さを感じた出来事から、漢字には何か素敵なメッセージが隠されているのではないかと考えているところが素晴らしいです。この作文を読んだ人が漢字に対して興味や関心をもつきっかけにもなるメッセージ性に優れた作品です。

#### ■講評

「聞く」との意味の違いや、自分自身の体験を基に「聴く」ことの大切さを伝え、それを実生活にいかしていきたいという前向きな思いが伝わってきました。漢字は様々な部分からできていることを改めて実感させてくれる作品です。

# 白川静漢字教育賞【第11回】



## 自由部門

(講評：選考委員 牧田 菊子 氏、大野 喜美恵 氏)

### 「元気いっぱい踊っている子」



福井県 あわら市北潟小学校2年  
関 優花さん

#### ■講評 (大野氏)

「子」の古代文字の上の部分大きく書き、そこに描いた目と口やのびのびとした横画から、あどけない幼子が両手をいっぱい広げて立っている姿が想像されます。素朴な愛らしさとほのぼのとした雰囲気が伝わってきます。

### 「蘇る一夜の走馬灯」



福井県 福井県立高志中学校3年  
内藤 由衣さん

#### ■講評 (牧田氏)

「走馬灯」の「馬」の古代文字にある4つの右払いに描かれた鬣(たてがみ)のイラストから馬が疾走する様子が想像され、その姿に、あっという間に過ぎていく時のイメージが重なります。古代文字の形を生かして思いを伝えている魅力的な作品です。

### 漢字カフェメニュー「陽光浴びるレモネード」



福井県 福井市成和中学校2年  
武田 璃衣子さん

#### ■講評 (牧田氏)

「陽」の古代文字について、形はチョコレートやアイスクリーム等で、光り輝くイメージはレモネードで表現するなど、作者のアイデアがきらめく作品です。漢字のイメージを膨らませて誕生した美しくおいしそうなおカフェメニューに心が明るくなります。

### 「ようこそ越廼へ」



福井県 福井市越廼小学校5・6年生の皆さん

#### ■講評 (牧田氏)

皆で話し合った越廼の魅力を古代文字・文字とそれに添えた言葉で表現し、共同制作した本作品は、色やデザインも素敵で、ふるさと愛や学校愛にあふれています。越廼地区の素晴らしさがよく伝わってきて、ほのぼのとした心温まる作品です。

### 「好きなもの」



福井県 福井市足羽中学校1年  
安野 佑紀さん

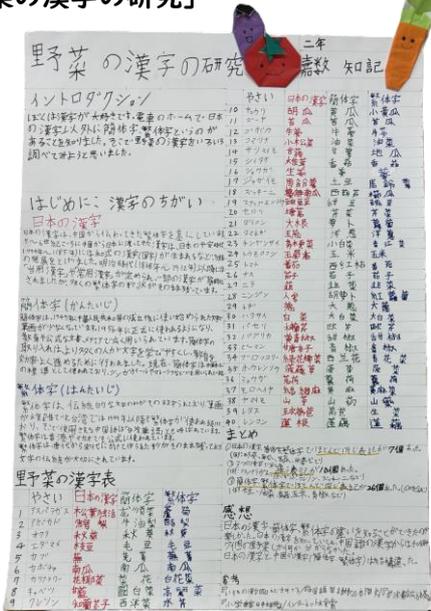
#### ■講評 (牧田氏)

安野さんの「安」という漢字で自分を表し、その一画一画を、好きな魚や魚をさばく刃などで巧みに表現し、色使いも美しいです。魚がしぶきをあげて反る姿で左払いを表現するなど、細かい部分にまでこだわって制作され、とてもインパクトのある作品です。

# 自由部門

(講評：選考委員 牧田 菊子 氏、大野 喜美恵 氏)

## 「野菜の漢字の研究」



東京都 品川区立大井第一小学校 2年  
嘉数 知記さん

### ■講評 (大野氏)

野菜の漢字について、日本の漢字・簡体字・繁体字でどのように書くのかを調べた探究心が素晴らしいです。大好きな漢字を調べることを楽しんでいる様子が伝わってきます。違いがわかるように表にまとめた点も優れています。

## 「漢字成り立ちスタンプ」



福井県 福井県立高志中学校 3年  
郡谷 遙さん

### ■講評 (牧田氏)

SNSで使用するスタンプを、漢字の成り立ちをモチーフに作ってみようという発想がユニークで、時代にマッチしています。漢字の成り立ちをイラストでかわいらしく表現した各スタンプの完成度が高く、実際に使ってみたくなる素敵な作品です。

### ■講評 一漢字川柳部門一 (大野氏)

漢字川柳部門には29点の応募がありました。漢字川柳部門は、漢字の成り立ちに関する川柳作品で、まず漢字の成り立ちを調べ、そこから想像をふくらませて創作した川柳を応募する部門です。

昨年度と比べて応募数は少なかったものの、漢字の成り立ちと自分の体験を結び付け、五・七・五の十七音という少ない文字数の中でわかりやすく表現している作品が多くありました。また、漢字一文字を選ぶまでも、自分で何度も調べたり、これまでの経験を思い返したりする中で発見や驚き、感動があったことがうかがえました。

### ■講評 一漢字作文部門一 (大野氏)

漢字作文部門に162点の応募がありました。漢字作文部門は、漢字にちなんだ400字までの自由作文を応募する部門です。

今年度は自分の名前の漢字について書かれた作文が多くありました。自分の名前の漢字はやはり特別であり、そこに込められた思いを想像して大切にしたいという気持ちが伝わってきました。また、独自の感性から思考を巡らしたメッセージ性の強い作文も多かったです。その他、漢字の意味や成り立ちからその漢字の「物語」を豊かに想像している作品もあり、漢字は想像の扉を開くカギにもなると感じられました。

### ■講評 一自由部門一 (牧田氏)

自由部門には709点の応募がありました。自由部門は、白川静博士や漢字をテーマに、自由な発想で創作した作品を、考えたことや工夫した点などの解説を添えて応募する部門です。

国語科だけでなく美術科や家庭科で取り組んだ作品も多数あり、多くの小中学生が個性を発揮し、さまざまな視点で漢字に親しんでいることをとても嬉しく思います。漢字が、子どもたちの豊かな感性によって時を越え、日常を彩るエッセンスになっていることに改めて感動しました。

## 学校賞 ※小・中学生の部



福井県 福井県立高志中学校



福井県 福井市清水中学校

福井県では、本県出身の白川静博士の功績にちなみ、特色ある漢字教育を実践している方や、漢字文化の普及や生涯学習の推進に貢献している方、ならびに漢字に親しむ小・中学生を全国から公募、表彰する「白川静漢字教育賞」を実施しており、今年度、第11回を迎えることができました。今回は9都道府県から912点のご応募をいただきました。

令和6年9月、福井県庁にて選考委員会を実施し、受賞作品を選考いたしました。

### 【選考委員】(敬称略)

- 棚橋 尚子 (奈良教育大学教育学部教授)
- 加藤 徹 (明治大学法学部教授)
- 後藤 文男 (立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所上席研究員)
- 伊与登志雄 (福井新聞社参与・特別編集委員)
- 津崎 史 (白川静博士長女)
- 藤丸 伸和 (福井県教育委員会教育長)
- <小・中学生の部のみ>
- 牧田 菊子 (福井県中学校教育研究会国語部会長)
- 大野喜美恵 (福井県小学校教育研究会国語部会長)



白川文字学 HP は  
こちらから

福井県教育庁生涯学習・文化財課  
TEL : 0776-20-0559  
Mail : syoubun@pref.fukui.lg.jp